

平成 25 年 2 月吉日

各チーム会長、監督、コーチ殿

一般財団法人 日本リトルシニア中学硬式野球協会
理事長 林 清一
(公印省略)

昨今の“体罰”報道に思うこと

立春を過ぎ、球春が待ち遠しい今日この頃です。日頃よりリトルシニアのチーム運営にご努力いただき、心より感謝申し上げます。

さて、大阪市立桜宮高校 2 年生、バスケットボール部主将の男子生徒が、顧問の男性教諭から体罰を受け、自殺した事件の報道以来、中学校、高等学校の複数競技の運動部顧問から、オリンピックの女子柔道代表監督に至るまで、指導者による体罰が社会問題化して大きく取り上げられております。

私は、昨年来、指導者講習会等様々な会合の場で、機会あるごとにチームの指導者による暴力行為はあってはならないと呼び掛けておりますが、この機会にもう一度、選手指導に対する考え方を述べさせていただきます。

リトルシニアの目的は「野球を愛好する中学生が硬式野球を正しく学び、国際的スポーツマンとして強健な身体と健全な精神を涵養する」ことであり、野球界にとどまらず立派な社会人、国際人の育成を目指しております。今春、発行予定の関東連盟 40 周年記念誌には、シニア時代に様々な指導を受け、野球を含む各界で活躍する卒団生 15 名のメッセージを紹介しており、選手指導の一助にして頂きたいと考えております。

各種大会や人生の大きな目標に向かって選手を指導することは、指導者の務めではありますが、なかなか思うようにいかないことも多々あるでしょう。そのような時にこそ本来持つべき指導の本質が発揮されるのです。過重なトレーニングや、いわゆる体罰をもって指導するのではなく、選手の将来を見据え、熱くなり過ぎずかつ選手が「感謝の気持ちを力に換えて」の本質を理解し、実践できるよう指導して頂きたいと思えます。

ボランティアで、このような活動を熱心に行う皆様の姿は、誠に崇高なものです。この高い志が誤解されるような行為、暴力・体罰と言われるような行き過ぎた指導で台無しになることの無いように心がけて頂き、将来選手たちの心に、真剣に物事を追求することの厳しさと楽しさが指導者の皆様の姿とともに懐かしく思い出されるようになって頂きたいと思えます。

今後とも、皆さんと力を合わせて、他の模範となるようなリトルシニアを目指して尽力していく所存でございますので、ご協力頂きますようお願い申し上げます。

以上